



知夫小中学校
 Tel 08514-8-2015
 Fax " 8-2312
 〒684-0100
 知夫村 1053-1
 [HP] <https://www.chibumura.ed.jp/>

一学期を振り返って 校長 若本 剛

五十九日間の一学期も今日で終わりです。一学期は、コロナウイルス感染拡大防止のため、四月十三日より五月六日までの期間、臨時休業となりました。本校では、子ども達の学びを保障するために、小学部五年生・中学部三年生で、オンライン授業に取り組みました。また、全学年において、学習プリント等の配布も行いました。五月七日からの学校再開後は、土曜授業日の設定や七時限目の設定等も行い、臨時休業中の学習の遅れを取り戻すだけでなく、コロナウイルス感染症の第二波・第三波に備えての対策にも取り組んできました。全ては手探りの中での取り組みでした。その中で頼りになったのは、家庭・地域の方々のご協力でした。学校・家庭・地域の連携なくしては、今の状況はあり得ませんでした。保護者や地域の皆様のご協力には大変感謝しております。さらに頼もしかったのは、このような困難な状況にもかかわらず、常に前向きに、今できることに一生懸命に取り組んだ子ども達でした。

一学期の始業式には、子ども達に次のような話をしました。

この一年、『みんなが笑顔に』なるように、次の四つのことを頑張ってください。

やらされるのではなく「自ら学び」、「友だちを大切に」しながら、互いのよさを見つけ、どんなことでもいいので『やりきって』、まだ気づいていない、地域の『ひと・もの・こと』を発見する。そんな、知夫小中学校の児童生徒になってください。

学期末に子ども達にとったアンケートをもとに、この一学期を振り返ってみると、

【自ら学んだ】については、八十%の児童生徒がよく学んだと答えています。

その内容は、「分からないところを自分から質問して、理解することができた。」「自主学習の仕方を工夫した。」「コロナで休みだったけど、土曜日の授業で新しいことがたくさん学べた。」等、困難

- 【学校教育目標】**
 未来を切り拓く
 心豊かでたくましい
 知夫の子どもを
 育成する
- 【めざす子ども像】**
- ・自ら学ぶ子ども
 - ・共に生きる子ども
 - ・たくましく
生きる子ども
 - ・ふるさとを
愛する子ども

な状況にありながら前を向いた回答が多かったです。

【友だちを大切に】については、九十%の児童生徒が、友だちを大切にしたいと答えています。

その内容は、「毎日、ホカホカ言葉をつかって相手を楽しませた。」「友だちが失敗をしても、大丈夫だよと励まして大切にしたい。自分も心がすっきりした。」等、自分自身も大変な状況でも、友だちを思いやる姿がたくさんありました。

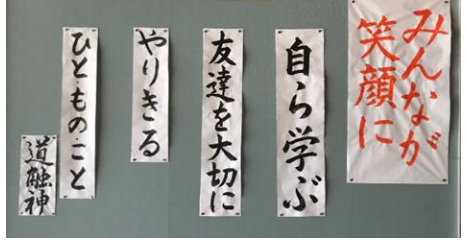
【やりきった】については、八十%の児童生徒がやりきったと答えています。

その内容は、「宿題をちゃんと最後までやって、忘れずに持ってきた。」「なわとび交流会で、全力を出し切り、悔いのない交流会にできた。」「長距離走がきつかったけど、諦めずにがんばった。」等、自分に挑戦する姿がありました。

【地域のひと・もの・ことを発見する】については、六十五%の児童生徒が発見できたと答えています。数値としては低いように見えますが、このコロナ禍の中、地域に出て行くことができなかった子ども達も、学校の中で見つけたことを書いていました。

「クラスのみんなのあいさつがすごくいい。笑顔が多い。」「〇〇くん、〇〇さんがやさしい。」「生徒会が学校をまとめていて。」「一人一人によさがある。」等、地域の一人である自分たちを振り返る良い機会になっていたと感じました。

明日から夏休みとなり、交通安全や事故防止について学校でも指導しますが、ご家庭、地域での子ども達の見守りをお願いいたします。一学期の教育活動への多くのご支援ありがとうございました。この夏休みの間、コロナウイルス感染症対策にしっかりと取り組まなければならないことも、夏休みには少しづつでも、夏休みもチャレンジして欲しいと思います。二学期の始業式に、みなさんの笑顔に会えることを楽しみにしています。



目に見えない敵との戦い ～コロナ禍の中での一学期～

今日で一学期が終わります。この一学期間は、児童・生徒はもちろん教職員も保護者の皆さんも「新型コロナウイルス感染症」によって、これまでに経験したことがない時間を送ることとなりました。そこで、一学期の間、「学校が新型コロナウイルス感染症防止のためにどのような対策を行ってきたのか」について、写真を添えながら紹介したいと思います。

【毎朝の検温について】
 風邪の症状がある場合、児童・生徒に登校を控えてもらう可能性がります。そのため、毎朝、全ての児童・生徒に検温をしてもらい、「健康観察カード」に記入し、持ってきてもらうところまでお願いしています。そして、健康観察カードは児童・生徒が登校した直後昇降口にてチェックし、風邪症状がないかどうか確認しています。



【マスクの着用について】
 体育の授業以外は、児童・生徒にマスクを着用するように指導しています。ただし、六月に入ってから暑さも増してきましたので、体育の授業以外でも三密（換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、身近で会話や発声を防ぐことができない状態）を避けるために、マスクを外さず、マスクを付けています。



【給食について】
 これまでは、小・中・高部がランチルームで給食を食べていました。現在は、小・中・高部が別で給食を食べています。小学部はランチルームのテーブルを使って広がって食べています。中学部は、給食の準備・会食・片づけを三階で実施し、学年別で教室で食べています。児童・生徒が集まりすぎる（密集状態）を避けているので、皆が真っ直ぐ前を向いて静かに給食を食べています。



【全校集会活動について】
 全校朝会や児童・生徒会朝礼など、これまで、三階の多目的ホールで実施してまいりました。五月十四日に感染症拡大の緊急事態宣言が解除され、そこからは体育館に集まり、できるだけ人と人との間隔を開けながら集会活動を実施するようにしています。



【歌唱指導について】
 新型コロナウイルス感染症の予防策を考える際、「大きな声で歌うことは、感染リスクが比較的高い」とされており、「みんなが歌う活動」については、なかなか実施に踏み切ることができていませんでした。しかし、世の中の音楽活動が再開されるようになったり、一般社団法人全日本合唱連盟より出されているガイドラインなどを参考にしたりして、ようやく七月より予防策をとりながら歌唱指導が再開されました。再開は、小学部の全校合唱からでしたが、十八名の児童が声を合わせて歌う様子は懐かしく、清々しいものでした。



特集2『これからの教育 その①遠隔授業をやってみて』

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国に緊急事態宣言が出されたのは4月16日。鳥根県は5月14日に緊急事態宣言が解除されましたが、最近では国内での感染者が増え、いつまた緊急事態宣言が発せられるような事態になるのか…。そのような緊張感が高まっています。

知夫小中学校は、緊急事態宣言が発せられ、臨時休業期間が決まった時点で、教育委員会と連携してオンライン授業の準備を始めました。そして、3日間という短い期間ではありましたが、学校と児童・生徒の各家庭をつないだオンラインでの遠隔授業を実施することができました。遠隔授業は、どの教職員にとっても初めての取り組みでした。

現在の新型コロナウイルス感染症の全国での広がりを考えますと、2学期以降にオンライン授業再開の可能性があることを想定しておかなければなりません。そこで、教職員に聞いてみました。

聞いてみたことは、オンラインでの遠隔授業をやってみて「新しい可能性として感じたこと」と「遠隔授業の難しさ」。そして、「オンラインのシステムを使ってやってみたいこと」の3点。今回（7月号）は、「オンラインでの遠隔授業をやってみて、教職員が『新しい可能性として感じたこと』」を紹介します。

- 今後また臨時休業になっても授業を行うことができる。
- 新しい教育の始まりを感じた。
- 学校に来なくても授業を受けることができるので、入院中の子どもなどにも有効であると感じた。
- コロナウイルス以外の休業でも、授業をやろうと思えばできる。
- 様々な教科・学習に応用できる。
- 今回活用した ZOOM（ズーム）にはたくさんの機能があり、子どもが学習に意欲的に取り組もうとしていた。この機能を活用できれば、より良い授業ができると感じた。

（※ZOOMとは、テレビ会議と同様に映像と音声を使って、目の前にいない相手とのコミュニケーションを可能にしたソフトです。パソコンやスマートフォンが手元にある、インターネットができる環境であれば、様々な人とつながってコミュニケーションを取ることができます。）

- 授業を受ける子どもの数が少人数であれば、意見交換もでき、普通の授業のようなことができると分かった。
- 十分に授業ができると感じた。※ただし、知識を習得させる場面においての話。
- 地域を問わず、（例えば県外の人とも）画面上で顔を見て交流することができそうだと感じた。
- 隠岐以外の学校・地域とも関わることができるのではないかと感じた。
- 海外ともつながることができるのではないかと感じた。英語の授業に、かつて知夫（島前）にいらっしやった ALT が出演することも。
- 個別支援のきっかけづくりができる。子どもが質問しやすい雰囲気がある。



〔オンライン遠隔授業 こぼれ話〕

初の試みということもあり、オンラインでの遠隔授業をすることになった担任や教科担当者は、空いている教職員に声をかけ、模擬授業にいそみました。「パソコンのカメラに、黒板のどこからどこまでが撮影可能になるのか。」「どのくらいの声の大きさで話せば、相手にどのくらいの声の大きさで聞こえるのか。」などいろいろ試していました。

授業初日の朝、保護者や子ども達が不安なく ZOOM をつなげて授業にできるよう約束の20分程前からパソコンの前で待つ教員がいました。

児童・生徒会だより②

限られた時間の中、中学部三年生を中心に、児童・生徒会が様々な取り組みをしています。先月号に続き、各委員会の取り組みを委員長（生徒会長）の言葉で紹介しします。

〔児童・生徒会の意気込み〕

児童・生徒会執行部生徒会長

児生会本部の活動は、本気目標や感謝カード、あいさつ運動、児生会朝礼などに力を入れていきます。また、今期からは、新しく児生会新聞を発行したいと思えます。この活動は、コロナウイルス感染症の影響で地域との関わりが薄くなってきた中でどのように交流していけばよいかを考え、地域の人たちにもっと学校を知ってもらうために新聞発行という形になりました。内容は、各学級の紹介や委員会活動の内容などを書き、回覧板などで地域の人たちに見ていただいたらと思います。

コロナウイルス感染症の影響でたくさんの活動が制限される中ですが、「今だからこそできること」を考え、充実した児童・生徒会になるようがんばっていきたいと思います。



文化福祉委員長

今期文化福祉委員会では、福祉活動を中心に、掃除週間やペットボトルのキャップ集め、ボランティア活動を行います。掃除週間は、昨年度

後期の委員会活動で行いました。全ての掃除場所の児童・生徒が、すみずみまで掃除することができるようになりました。私たちがこの知夫小中学校を気持ちよく使うことができるのは当たり前ではありません。そこで、この前期も掃除週間に取り組み、全員が気持ちよく掃除に取り組めるようになると思います。ペットボトルのキャップ集めは、全員が楽しく取り組むことができるように工夫し、福祉活動に興味を持ってもらえるようにしていきたいです。最後に、ボランティア活動はコロナウイルス感染症の関係でできる活動が限られているので、地域に出るということが難しくなることが考えられます。その場合は、学校で行える活動をしていきます。いろいろな活動を通して、委員会を中心に全校生徒が感謝の気持ちやボランティアへの興味を持つてるように考えていきたいと思っています。

夏は、知夫を満喫できる最高の季節です。子どもたちは、海遊びを楽しみにしていると思います。知夫には、遊泳できる場所がたくさんありますが、救命ブイを設置する場所は、例年どおり「郡地区コミュニティ付近」「渡津海水浴場」「長尾海水浴場」「仁夫さざえ島」の四カ所です。一方、JFからは、小中学生限定で魚介類を採取してもよい解放区を設けていただいています。海に親しむ機会が少なくなっている現在、サザエ等を探る体験は知夫の魅力を再発見するチャンスだと思います。ただし、海は危険と隣り合わせです。保護者の了解のもと、安全を第一に考えて行動しなければなりません。保護者や地域の皆様には、ご指導・ご協力をいただきますようお願いいたします。

